**第２回　大刀洗町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会　議事録**

**～ 主な意見の抜粋 ～**

日時：令和2年1月24日　10時～12時　　　場所：役場3階大会議室

議題

（1）総合戦略の基本目標について

（2）総合戦略の施策について

**（1）総合戦略の基本目標について**

●委員

各小学校が一律120人を目標値としているのはなぜか。

○事務局

学校によって既に生徒数に大きな差があるので同じ数値として違和感を覚えられるとは思いますが、2060年までを見据えた長い目標なので、近似値として120人ということではなく、最終的に2060年までに各校120人は維持したいという目標を示しています。

●委員

将来も住み続けたい割合は、筑前町が極端に増えているがなにか理由があるか。

○事務局

他の自治体がどのような図り方をしているのかも把握できておりませんので、理由までは分かりかねます。しかし、筑前町は人口が増加している町ですので、住みやすさが向上していることと関係があるのかもしれません。

●委員

アンケートで、住民の住み続けたい割合を出しているが、まず回収率が少し低いのかもしれない。回答する人の方が建設的な意見が多いのではないか。そもそも町のことに関心を示さない人ほどアンケート回答しないのでは？また、住んでいる人も数十年住んでいる方もいれば、引っ越して間もない方もいる。多くの方に聞けると良いと思う。

○事務局

回答率が低くなる要因として設問が多いことが一つ挙げられると考えています。設問の精査も必要かと思います。また、多様な町民に意見をいただくために、より簡単に回答ができるように、調査方法をインターネット調査にするなど適宜見直しを図って行きたいと考えています。

●委員

目標では人口が下がる前提で設定されているが、もっと意欲的な数字でも良いのではないかと思う。また、出生率が高いのは共助の仕組みづくりができているということで前向きに捉えても良いのではないか。

●委員

業種別の所得はデータとして出すことはできる？そこを出してもらうと更に議論を深めて行くことができると思う。

○事務局

県で公表されている数字から作成していますので、そのデータからは拾えないです。町の税務課が持っているデータなど他のデータで対応可能かもしれないので、再度探してみます。

●委員

従業員数については、景気的なものに左右されることだと考えるが、町として地元の企業との連携や何かアプローチは考えているのか。

○事務局

現在、町として企業と連携して何かするということはしていません。現状できることとしては個人事業主の廃業を防ぐようサポートすることなどを考えています。

●委員

町外で働いている大刀洗町在住の方の割合は。

○事務局

就労者の約6割が町外に働きに出ています。

●委員

そうなると、単純に所得を上げるには、現状よりもっと町外（大都市＝比較的給与水準の高い）で働くことを推奨することになってしまうと思うのだが。もう少しデータを詰める必要があると思う。むしろこれから5年間なり所得を上げるために何をしていくかということの方が議論として大事ではないか。

●委員

小学生の数を見ても、現状として各校区で格差がありますが、この戦略は校区単位ではなく町全体の数値（戦略）と認識してよいのか。

○事務局

戦略については、町全体の計画です。校区別の戦略はつくっておりません。ただし、校区によって年少人口や高齢者の割合も開きがありますし、それに伴って課題などは変わってきますので、それぞれ個別の施策でそれらひとつひとつの課題を解消できるようにはしていきたいと考えております。

**（2）総合戦略の施策について**

①行ってみたい住んでみたい大刀洗町へのひとの流れをつくる。

●委員

空き家活用はどういったことをしているのですか？

○事務局

町内には200近い空き家があります。所有者と利用希望者をマッチングするシステム「空き家バンク」を運営し、空き家の利活用に努めています。

所有者を調査し、直接郵送などで適切な管理等を促したりもしています。

●委員

東京圏からの移住者には補助金があると聞いたが、町内にマイホームを建てた方は定住者なので、そこについても町独自での補助金を検討していただきたい。

○事務局

他市町村の状況を把握しながら、検討していきたいです。

②子どもも親も、共に輝けるようみんなで応援する。

●委員

保育士を確保するために広報PRにもっと力を入れてほしい。ハード部分はある程度整備されている。とにかく保育士が不足している。

○事務局

前回の審議会でも、情報が届いていないということが分かったので、もっと多くの方に情報が届くように保育士を育てる学校や高校など様々な場所にPRしていきたいと思います。

●委員

保育士の奨励金補助の対象者をみると、ローンの名義が本人に限定されている。親や祖父（母）名義になっている人もいると思うので対象者を広げてみてはいかがか。

○事務局

対象者については、見直しを進めています。

●委員

子どもへの暴力防止プログラムで、危険な家庭を見守るシステムがあれば良いと思う。

虐待を受けている子どもは自分では言えない、周りが関わって現場に行って把握できる仕組みを考えてはいかがか。

○事務局

現在、子育て相談事業においては、対処的な観点から子ども支援ワーカーが実際そういう支援を行っている。ただし、マンパワーが足りていない現状があるので、チームのように連携して対応していかなければと考えています。

また、本事業は予防的な観点から子どもが虐待を受けないようにするスキルの取得や環境をつくることを目的にしています。

●委員

こんにちは赤ちゃん事業の目標値は利用者数になっているが、利用者が少ないことは必要としている人が少ないということかもしれないので、目標値はもう少し検討した方が良いのではないか。

○事務局

以前からご意見をいただいている部分ですので、意見を踏まえて検討します。

③しごとに誇りや、やりがいを感じられるよう応援する。

●委員

創業支援は商工会と町とが連携して、もっと強化できないものか。

○事務局

前回ご提案いただいた補助金について、現在産業課内で検討が始まったところです。他市町村の例を見ても補助金率等の違いがあるので本町に適したところを慎重に検討していきたいです。

●委員

創業支援の募集要件の際には、男女共同参画や障がい者支援の視点も含んで欲しい。

○事務局

現在の要件においても性別等で対象を限定しておりませんが、ご指摘の視点を含み今後も多くの方が活躍できるように支援していきます。

●委員

他の市町村ではシルバー人材が不足しているという話を聞くが、大刀洗町の現状はどうか？

○事務局

大刀洗町でも会員が減っている現状があります。ただ、減っている理由の一つとして、シルバー人材ではなく再雇用で働く方が増えているという側面もございます。高齢者が働きたいと思った時に働ける場所を確保するためにも、需要と供給のバランスが取れるようにもっと呼びかけを行っていきます。

●委員

目標はすごく意欲的だが、それにしては施策が乏しい気がする。ストーリーをもう少し描いた方が良いのでは。

○事務局

施策については、町独自のもののみ挙げているので少なく見えますが、国や県と連携して行なっている事業はここに挙げたもの以外にも多くあります。2期事業を進める中で毎年事業効果を検証しながら施策の追加・廃止を検討していきます。

●委員

どうしても縦割りの列挙になっているので、横串をどう通していくかというストーリーが見えないと。そこが皆関心を持つところだと思うので。

○事務局

ご指摘いただいたとおり基本目標ごとに施策を並べておりますので、分かりにくいのですが、例えば同窓会支援については町内飲食店に限定していたり、情報を発信することで事業所の支援になったり、待機児童を解消することで家庭の所得の上昇や働き手の確保ができたりするので、仕事の支援に関係してくるものもあります。戦略では、文章にまとめていくので、その時に少し関連性を示せるような見せ方を事務局で検討していきます。

④いつまでも暮らしたい、みんなが自慢したくなるまちをつくる。

●委員

コミュニティバスは、利用者が使い易いように、また外に行く足としての経路も考えて巡回経路を決めてほしいと思う。

○事務局

実際に利用される方のニーズを取り入れながら計画していきたいと思います。また、既存の交通機関とのすみ分けをしっかりとして、連携を図り相互の利用促進が進むような運行を検討していきます。

⑤大刀洗町の魅力をみんなで共有し発信する。

●委員

家に広報紙が届いてもなかなか見ない人もいる。町の施策を全然知らなかったので、SNSやネットでの発信に力を入れてもらうのは良いと思う。

○事務局

施策や情報がより多くの方に届くように、フェイスブックやインスタグラムなど様々なツールを積極的に活用していきます。

●委員

大使を増やしたその後は？活動を繋げる支援等は行わないのですか。

○事務局

現在500名程集まっていて、今まさにその問題が浮上しているところです。現状、町でのイベント等の情報提供はダイレクトメールでお届けしていますが、双方向のものにはなっていないです。今後は、関係人口の拡大が国でも進められていますので、町に関わりや関心を持っていただいている方々を更に取り込んでいけるようにしていきます。

●委員

広報紙のつながるコーナーというものがあるが、うきは市では学生と連携して地元出身の学生が、自分たちの身近な企業を取材するというものもやっている。

○事務局

町は、広報担当者と産業振興担当者で取材にいく方法をとっています。学生と連携することもとてもよいことだと感じているので参考にしていきたいです。